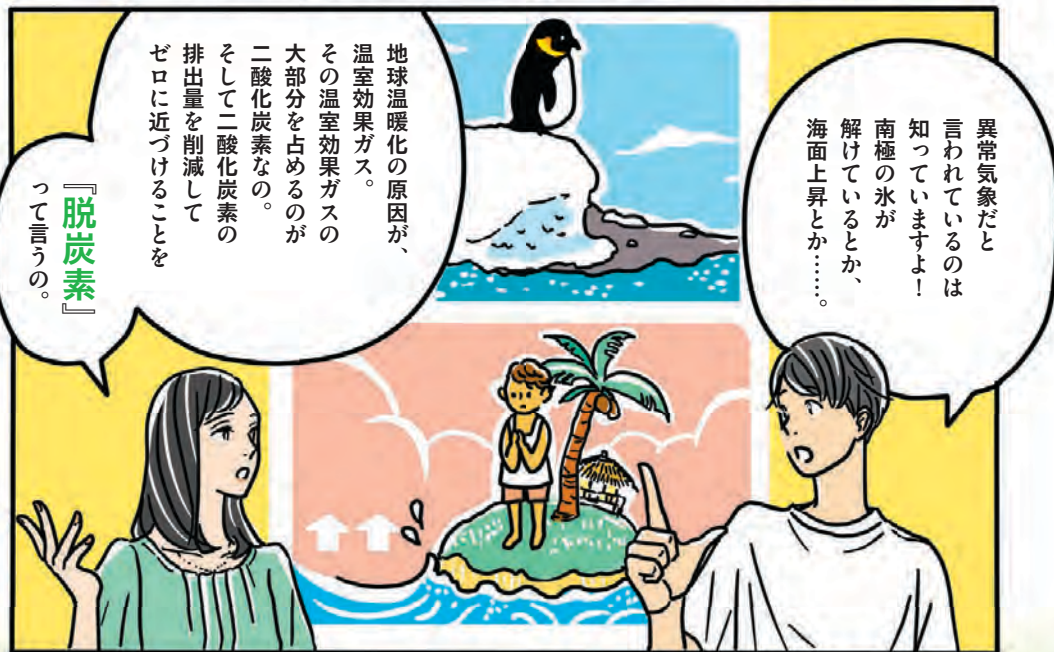
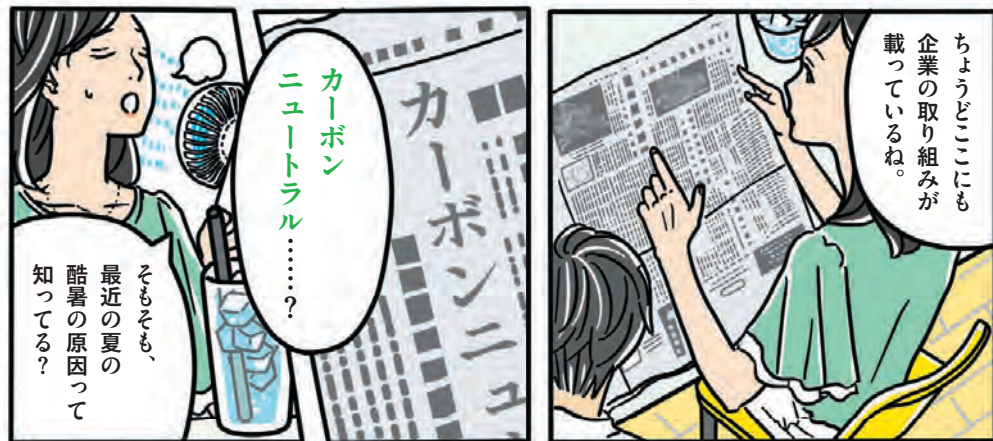


脱炭素に向けて できること

発行・編集 読売新聞社





未来に向け、脱炭素の取り組みが進められています

気候変動、地球温暖化の原因でもあるCO₂（二酸化炭素）排出量を抑えるため、「世界全体のCO₂排出量を2030年までに半減、2050年までに実質ゼロ」という国際的な目標のもと、世界各国が脱炭素に取り組んでいます。企業活動においても、CO₂の排出量削減や吸収量アップのため、さまざまな研究や取り組みが進んでいます。この冊子では、脱炭素の基本的な情報や企業・自治体などの取り組みについて、ご紹介していきます。



CONTENTS

- 1 [マンガ] 脱炭素との出会い
- 3 [マンガ] 地球は今、どうなっている?
- 5 日本と世界の脱炭素の目標と取り組み
- 7 読売新聞の取り組み 1 クローズド・ループ（読売エコシェアリング）
- 9 読売新聞の取り組み 2 「読売の森」など植樹活動
- 11 読売新聞の取り組み 3 太陽光発電・EVトラックなど その他の取り組み
- 13 [マンガ] 脱炭素社会に向けて

脱炭素が大事なのはわかりました。
でも、二酸化炭素の排出量をゼロにするなんて、実際は無理なんじゃないですか？

そこで登場したのが、**カーボンニュートラル**という考え方なの。

排出量を最小限に抑えつつ、排出してしまった分の二酸化炭素の吸収・固定に取り組むことで、『実質ゼロ』にするってわけ。

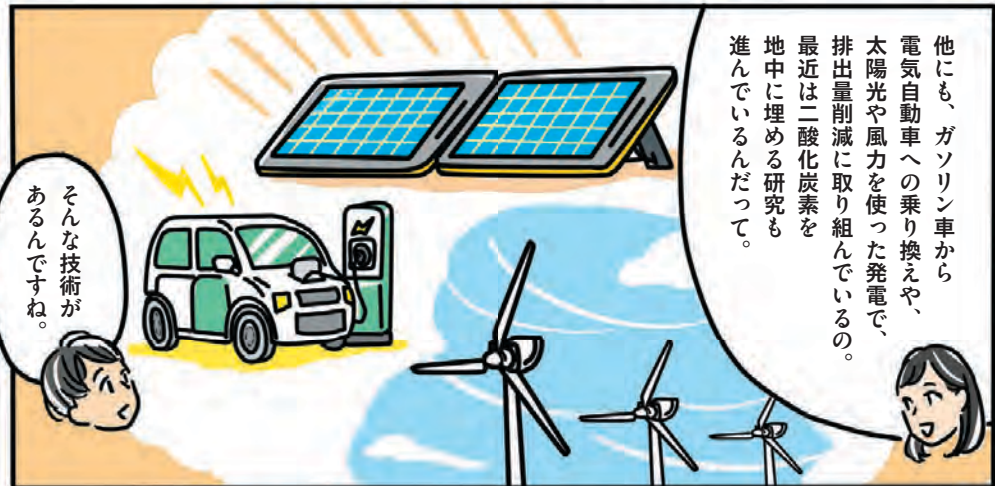


プラスマイナスゼロってことですか？

そういうこと。
こうやって、
経済活動を維持しつつ、
脱炭素社会の実現を
目指そうとしているの。

他にも、ガソリン車から電気自動車への乗り換えや、太陽光や風力を使った発電で、排出量削減に取り組んでいるの。
最近では二酸化炭素を地中に埋める研究も進んでいるんだって。

そんな技術があるんですね。



そして、二酸化炭素の吸収・固定に欠かせないのが、**植物**。
豊かな森を維持することが、地球の未来にとってとても大事なんだ。

じゃあ、森林伐採は絶対にNGですね！

実は、木を切らずに放置するだけじゃ、逆に森林が荒れてしまうの。

適切に**伐採**をして手を入れ、**管理**することが、**良い循環**を生むんだよ。

そうなんですね！！

そのほかに、脱炭素社会の実現に向けて、世界中でさまざまな取り組みが行われているのよ。



自治体や企業の取り組み

脱炭素には、政府だけでなく社会全体で取り組む必要があります。自治体や企業も排出削減目標を設定し、再生可能エネルギーの利用、EV（電気自動車）の導入、エネルギー効率の改善などを進めています。



提供：姫路市 照明デザイン：(株)石井幹子デザイン事務所

兵庫県姫路市

事例
1

ゼロカーボンシティ

兵庫県姫路市は、2021年に「ゼロカーボンシティ」を宣言。2050年までにCO₂の実質排出ゼロを目指しています。姫路城を中心とした脱炭素先行地域では、省エネ機器の導入、姫路城から離れた遊休地での太陽光発電設備の整備などを進めています。*

※「姫路城ゼロカーボンキャッスル構想」
<https://www.city.himeji.lg.jp/bousai/cmsfiles/contents/0000020/20745/himejidatsutanso.pdf>

トヨタ自動車(株)

事例
2

Woven City

未来のモビリティと都市や生活のあり方を実証するため、トヨタ自動車が、静岡県裾野市に建設中の実証都市。Woven Cityを起点に、ENEOSと共同でCO₂フリーの水素の製造と利用を推進するなど、カーボンニュートラルの実現を目指します。



日本ウッドデザイン協会

事例
3

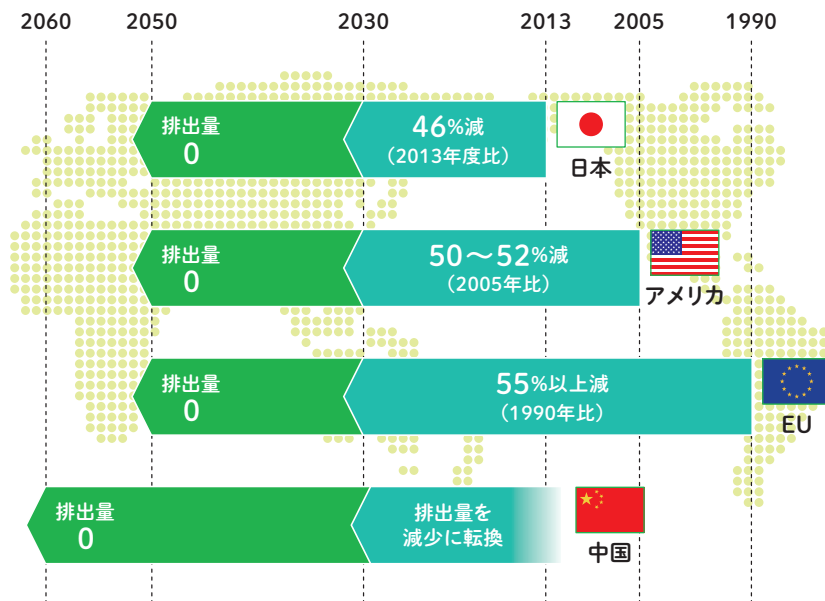
ウッドデザイン賞

日本ウッドデザイン協会は、木で暮らしや社会を豊かにするコト・モノを表彰するアワードを主催。木の活用を広げ脱炭素の取り組みを推進しています。



読売新聞社でも、脱炭素に向けてさまざまな取り組みを行っています。次ページから、その内容をご紹介します。

各国の脱炭素目標と取り組み



2015年に採択された「パリ協定」※1に続き、2021年のCOP26※2では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃以内に抑えるためにCO₂削減強化を求める「グラスゴー気候合意」が採択されました。現在、各国は独自の排出削減目標を掲げ、CO₂削減に取り組んでいます。

※1 パリ協定… 2015年に合意された、温室効果ガス削減に関する国際的取り決め。途上国を含むすべての主要排出国が対象となった。

※2 COP26…COPは「国連気候変動枠組み条約締約国会議」の通称。温室効果ガス削減に関する国際的取り決めを話し合う会議で、その第26回にあたる。

中国ではEV（電気自動車）へのシフトが急激に進んでいると、新聞で読んだわ。



日本と
世界の

脱炭素の目標と取り組み

日本、そして世界各国では、CO₂（二酸化炭素）排出量を削減するため、脱炭素に取り組んでいます。国内でも産学官が連携した研究や技術開発などが進んでいます。

Action

読売新聞販売店から、再
び読者の皆さまのお手元
に新聞をお届けします。



読売新聞販売店

配達

Action

読者の皆さまには、読み終えた
新聞はそのまま捨てることな
く、古紙回収に出していただ
くよう願っています。



読者

回収 (古新聞・チラシ)

Action

読売新聞販売店や
古紙回収会社が、
古新聞やチラシ
を資源として
回収。古紙問屋
に納入します。



読売新聞販売店
古紙回収会社

**循環、
合率**

**資源を100%国内で
読売新聞の古紙配
約70%を実現!**

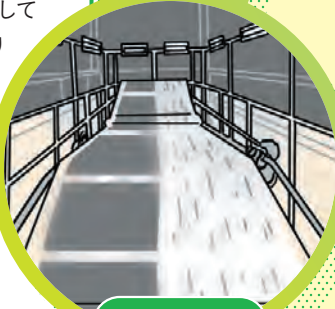
読者の皆さまが読み終わった新聞を回収・
再生し、新たな新聞として再び読者のも
とにお届けする「クローズド・ループ」。
資源をリサイクルするためのループです。



毎日届く新聞だから
こそ、資源を大切に
したいね。

Action

印刷工場で印刷し、
新しい新聞として
生まれ変わら
れます。



読売新聞
印刷工場

Action

古紙問屋から納入された古紙を、
紙の原料となる古紙パルプに再生。
木材チップから作った新しいパルプ
を配合し、再生された新聞用紙が出
来上がります。その再生された新聞
用紙を印刷工場に納入します。



製紙会社

納入

Action

古紙問屋では、回収した古
新聞とチラシから、新聞用紙
として再生できないものを取り
除き、古紙パルプとして再生で
きるものを製紙会社に納入します。



古紙問屋



「読売の森」 植樹活動 など

読売新聞社では、紙を利用する事業者の責任として、紙の原料となる木を育て、森林資源を守るため、「読売の森」などの植樹活動を行っています。これまでに全国各地に累計8500本以上の木を植えてきました。

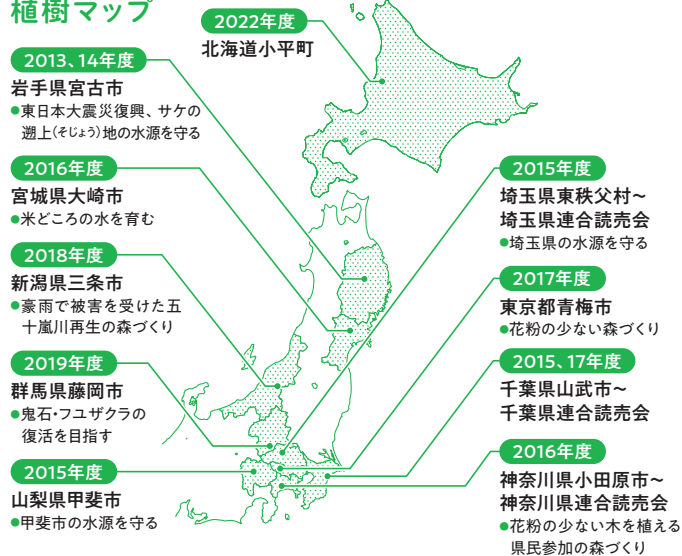


読売の森（埼玉県秩父村）

「読売の森」は全国10か所以上

※2023年12月現在

植樹マップ



廃牧場の森林化、水源の森の再生、花粉の少ない森づくりなどのテーマで、全国の自治体やNPOの協力のもと、これまでに10か所以上で植樹活動を行ってきました。2024年には三重県多気町でも実施予定です。

古紙回収の売り上げの一部で木を植える

2013年より、読売新聞東京本社、読売新聞販売店、古紙回収業者で組織する「読売リサイクルネットワーク」が、古紙回収の売り上げの一部で植樹活動を行う「読売の森」事業をスタート。岩手県宮古市から始まった取り組みは、全国各地で10か所以上に広がっています。

植樹活動で環境問題への関心を高める

地域の人たちなどと一緒に植樹や森の手入れを行うことで、里山の生物多様性を守ることや環境保護の大切さを学ぶ機会を提供しています。



読売の森（宮城県大崎市）

周りの人と一緒に取り組むから、みんなの脱炭素の意識も高まりそう。

SDGsの第12の目標「つくる責任 つかう責任」にも当てはまる取り組みだね。





太陽光発電・EVトラック その他の取り組み

読売新聞社では、そのほかにも脱炭素に向けてさまざまな取り組みを進めています。

シンポジウムの開催



温室効果ガスの削減について考えるオンラインイベント「ニッポンの未来フォーラム 挑戦！カーボンニュートラル」を開催※。今後も脱炭素に関するシンポジウムなどを開催予定です。

※NHKエンタープライズと共同主催。

太陽光パネル発電



印刷工場の屋根に、太陽光発電パネルを設置。再生可能エネルギーを積極的に導入し、CO₂を排出しないエネルギー源への転換を進めています（読売新聞群馬工場）。

共同輸送

異業種との共同輸送を実施。輸送を効率化することで、CO₂を排出するトラックの運行台数削減に取り組んでいます。

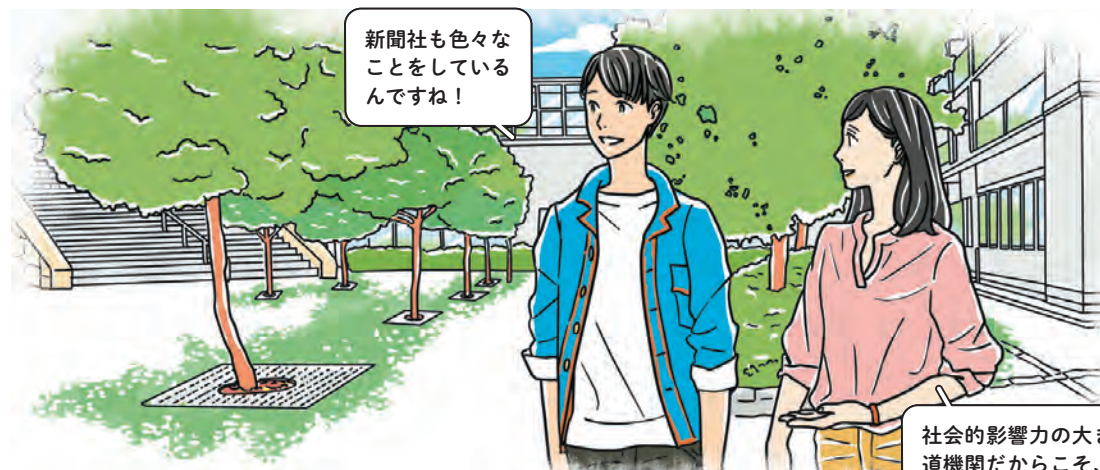


報道

読売新聞では、1989年から90年にかけて「地球環境をまもる」という大型連載を掲載するなど、報道機関として早くから地球環境に関する問題提起を行ってきました。



2050年カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現に向けて、読売新聞社では温室効果ガスの排出量などをモニタリングし、取り組みを継続しています。



新聞社も色々なことをしているんですね！

社会的影響力の大きい報道機関だからこそ、責任も求められるのね。

EVトラック



新聞輸送にEVトラックを導入し、工場内に充電器を設置。EVトラックは運行時にCO₂を排出しないため、排出量を大きく削減できます。





明日へつなぐ。未来を守る。

読売新聞社は、これからの地球環境を考える

「YOMIURI 脱炭素プロジェクト」に取り組んでいます。

読者の方が読み終わった新聞を回収、資源を100%国内で循環させ、新たな新聞として
再び読者の皆様へお届けする「クローズド・ループ（読売エコシェアリング）」。

紙の原料ともなる木を育て、森林資源を守るための植樹活動「読売の森」。

その他にも、新聞印刷工場で太陽光発電を導入。

EVTラックを使った輸送なども行っています。

新聞作りに関わる一人ひとりが「脱炭素社会」と
持続可能な地球環境の実現のために、取り組んでいます。

紙で伝え続けるために。紙を守り続けるために。

「脱炭素プロジェクト」の
動画へのアクセスは
こちらから！



読売新聞

<https://www.yomiuri.co.jp/>